

能登から学ぶ、被災地・未災地のために いま私たちができること

2024年 11月 2日 (土)
金沢大学宝町キャンパス 十全講堂

参加費 無料



※お席に限りがございます。
こちらのフォームから事前にお申し込みください。

第1部 13:00～13:30

「急性期から亜急性期における医療支援とその課題～能登半島地震の現場から～」

講師：高橋茉莉子 氏 (特定非営利活動法人
ジャパンハート 災害対策・支援セクション部長)

【略歴】

一橋大学社会学部卒。2011年から2年間の休学期間中、ジャパンハート設立以来初の非医療者インターンとして東日本大震災支援及びミャンマー事務局駐在、外務省ODAプロジェクト現地統括に従事。復学卒業後、2014年より金融機関で投資信託の組成・販売に携わり、社内賞等を受賞。2019年8月にジャパンハートへ再就職、経営戦略室長。2020年10月より災害支援事業部長として、令和2年7月豪雨災害支援、新型コロナウイルス感染症緊急支援、令和6年能登半島地震支援等の陣頭指揮を執る。



第2部 13:30～14:00

「被災地におけるボランティアの重要性」

講師：柴田邦臣 氏 (駒澤大学グローバル・
メディア・スタディーズ学部教授、LearningCrisis
研究会代表理事)

【略歴】

日本学術振興会特別研究員、津田塾大学准教授、University of Hawaii, Visiting Scholar等を経て現職。専門はソーシャル・インクルージョンと文化研究だが、東北大出身ゆえ東日本大震災で長らく災害情報支援を経験(宮城県山元町ほか)。その成果『思い出をつなぐネットワーク』は社会情報学会優秀文献賞(2014)を受賞した。能登半島では駒大のルーツたる總持寺祖院の輪島市門前町に1月から繰り返し派遣・滞在。特に地域伝承と祭祀の社会的機能から復興支援をめざす。文科省検定教科書『論理国語』(筑摩書房)に採録された主著『〈情弱〉の社会学』(青土社)は新装版が絶賛発売中。



視聴者参加型パネルディスカッション 14:10～14:40

「南海トラフに備えて、いま私たちができること」

座長：岡島正樹 氏 (金沢大学 救急・災害医学教授)
登壇者：高橋茉莉子 氏、柴田邦臣 氏

【略歴】

埼玉県男子校から1990年金沢大学医学部に入学、以後やさしい街、金沢に住み着く。1996年内科医としてスタートを切り、2001年大学院卒業。同年からモンリオール大学心臓血管研究所へ研究留学。2003年帰国後、救急医療・集中治療に取り組む。2021年より現職。医業のほかに、ファッション関連の資格取得や、カラオケ講師の父親の影響で『NHKのど自慢』出演などの経歴も有する。



1

13:00

13:30

2

13:30

14:00

3

14:10

14:40